

虚子記念文学館投句特選句

・令和七年十月

稻畑廣太郎 選

かげといふかげを沈めて水澄める

岡山 石井宏幸

今年米届く伏見に灘郷に

香川 三宅久美子

閉ぢられし庭の木の揺れ小鳥来る

奈良 堀田建夫

撫子の風にささやく小さき嘘

兵庫 池田雅かず

夕萩や筆。ペンで書くさやうなら

大阪 押見げばげば

冬支度サイズ変はりし吾子の服

兵庫 武田優子

はつきりと黒々と白山の秋

石川 辰巳葉流

束ねても竜胆どこか影寂し

兵庫 黒田千賀子

自習室ノート片手の夜食かな

兵庫 武田奈々

窓際の教科書めくる風九月

兵庫 藤丸慎士
(青少年)

薬箱整へ父の冬支度

風向きの軽やかに舞ふ秋日和

草じらみタイムカプセルこの辺り

北山を背景にして野菊濃し

赤すぎる林檎に魔法ありさうな

拝観の清流に尽く秋の蟬

鎌首は上げぬと決めて穴まどひ

蓮の実や団地の皆が目撃者

走り蕎麦またおかわりを妻も吾も

菊月夜おはしますかな庵主さま

秋潮を引きずつてゆく白き船

遠き世をなほ遠くする瓢の笛

共存と云ふも鹿垣てふ砦

名月の果ては無限の宙ばかり

ふるさとや車窓に淡き名残月

灯火親し俳句集成と親しめる

金木犀耳石の少し動くなり

蜻蛉の風の何かを探す仕草

鴨来る浅瀬俄かに騒めきぬ

ジーニーの出さうな雲や木の実降る

蝶渡る六甲山に吹く風と

留守宅の雨戸に搖れし秋すだれ

柿揃ぐや空を引つ搔く高鉄

茜色に染まる土蔵や秋探し

中村恵美

河野ひろみ

兵庫

てっ�んに残る熟柿の美しき

目薬のひやりとしみて今朝の秋

六甲に沈む日の位置秋深む

秋深い母の簞笥を片づける

雨の夜のひと雫づつ秋深む

火起こしのいろはにほへと稻の波

やあ秋刀魚目合い挨拶「久しぶり」

新米の香の階段を登り来る

菜箸の先の焦げ色秋の暮

朴落葉庭に過ぎし日ありにけり

秋冷の海へ一頭旅の蝶

兵庫

今井哲子

山岸正子

兵庫

大西美知子

兵庫

三木雅子

兵庫

秋風や終に友の訃届きたる

兵庫

太平楽太郎

水遣りといふ楽しさや秋日和

愛媛

星月彩也華

色変へぬ松傾きしままの電柱

神奈川

平野孤舟

柿熟るる考の作りし挟み竹

兵庫

矢車星風

当て馬にされて秋日の車椅子

熊本

貴田雄介

シニヨンへ結い直しけり檀の実

滋賀

太田怒忘

毒だけや黄色くなつた中切歯

滋賀

太田慈

秋晴をつかひ切つたる眠りかな

神奈川

（青少年）
進藤剛至